

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第3号
2020年 7月 3日
編集・文責 吉成正士

「ともだち」を学習して

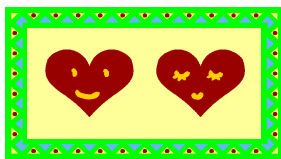
先日、すべてのクラスで「ともだち」という資料を使って人権学習をしました。その感想が寄せられてきたので、みなさんに紹介したいと思います。

■自分が今まで友達と接してきたなかで、「なんか楽しくないな」と思ったことが何回かあって、その時の自分は無理矢理友達になろうと思っていました。今考えてみると、無理矢理友達になろうとしなければ新しい親友ができていたのかもしれないと、少し後悔しています。

今回の授業では本当の友達はどうな友達なのか、すごく考えさせられました。小学生の時は、友達といっても話しかけてくれる子がメインで、なかなか自分から話しかけようとはしませんでした。でも今は違って、いろいろな人に話しかけようと努力をしています。しかし、現実では思うようにはいきませんでした。話しかけたいと思っていても、なかなか勇気が出ず、最近少し諦めかけていました。ですが、今回の授業でもう一度挑戦しようという気持ちになりました。少しスタートは遅れてしまいましたが、ビートたけしさんの詩を参考に、たくさんの人と友達、親友になれるように、たくさん声をかけていきたいと思いました。(2組AHさん)

友達になることって、妙に意識しすぎると難しいものです。私も同じ思いです。自然に友達になっていけるのがベストなのですが。

友達をつくるのが得意な人もいるように思います。あなたはどうでしょう？そんな人から何か学び取れる知恵や工夫があれば、教え合ってみるのもいいかもしれません。挑戦して、けどやっぱり諦めかけて、それでもまた挑戦して。そんなことの繰り返しですが、少しずつあなたを強くたくましくしてくれるのかもしれない。



■自分には信じれる友達があります。お互いに悩みを相談し合い、交換日記もつけていました。最初の方はお互いの悩みを書き合っていて、内容は暗めでした。でも、しばらくすると悩みが書かれなくなり、その日あった面白いことや、絵を描き合ったりしていました。

自分は少し相手に期待しすぎてショックを受けたことがあり、そこからしばらく誰にも期待できずに信じられなくなっていました。そのことを、その交換日記に書いていました。相手は相談を聞いてくれたし、相手の悩みも相談してくれました。その日からお互いを信じることができるようになりました。その相手とは今でも仲良くしています。信じられる人がいるだけで安心感があって、毎日が楽しく思えてきます。期待しすぎて、その期待通りじゃなくても、相手を責めないのが大事だと、今

回の話で分かりました。ビートたけしさんの詩からも大切なことが学べて良かったです。(2組MKさん)

信じることって、簡単そうで難しいものです。それはまるで、自分との闘いのようにもあります。でも、下線部のように、まず自分から一歩を踏み出してみること。そして安心感が広がれば、不思議なくらい毎日が楽しくてうれしいものです。そんなクラス、学年にしていくことが何よりも大切だということです。そのためには、まず、一人から。まず、あなたから。その集まりが、クラス、学年なのですから。



■今日は友達について考えました。私は、「友達は大事だな」と思いました。話を聞いて、「二人とも気持ち」がよく分かりました。イライラしたり、モヤモヤしたりしている状況で、友達にイライラして相手にしたくなる気持ちも少し分かるし、自分のせいで相手に迷惑をかけてしまい申し訳なくなる気持ちも分かります。

でも、世の中にはいろいろな人がいます。必ずしもみんなと気が合い、みんなと友達になれるわけではありません。気が合わない人や上手く仲良くできない人もいます。そして、「どこからどこまでが友達で、どこからどこまでが友達じゃないのか」の基準も人によって違います。「話したら友達」と思う人もいれば、「親しくなってからが友達」と思う人もいます。私は、「親しくなってから友達」と思うタイプなので、友達と呼べる人もそう多くはありません。

でも私は、友達の数よりも「一緒にいてどう思うか」が大事だと思います。自分が一緒にいる時に、相手に話を無理矢理合わせて悪口を言ったりするのは、本当の友達ではないと私は思います。もし友達が悪口を言っていたら合わせて悪口を言うのではなく、注意してあげるのが本当の友達だと私は思います。このクラスにも注意ができるような人がもっと増えたらいいなと思います。(6組HKさん)

■友達にあまり期待しないことが大切ということを知って、なるほど～と思いました。確かに期待してもできないことはできないのだから、友達でも誰でもあまり期待しないのはいいことだと思います。でも、やっぱり心のどこかで期待している自分がいます。頭でそう分かっているけど、人間にはやはり無理なんですね。だから、なんとか期待を抑えて、「こんなの当たり前」だと思わないようにしようと思います。でも自分だけではどうしても続かないと思うので、そこは友達にも協力してもらいたいです。友達にもそういう意識をもってもらったら、うまくいくと思います。これは期待するのと似ているようですが、ときには友達に合わせて、たまに自分の意見も言うことで、期待とはまた違う、なんというか、とにかく仲良くな

れると思います。友達が本当に間違っていると思う時だけは、お互いズバツと言ひ合える仲になりたいです。基本的に自分から話しかけるタイプではないので、友達をつくるのがちょっと難しいなと思っていました。でも、友達のことを考えたら、自然と友達になれるんだと思うと、少し楽になります。友達づくりはそんなに難しくなかったんだと思いました。(6組IHさん)

深く考えさせられる感想です。

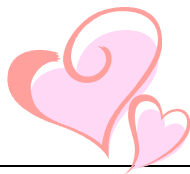
いじめや差別が起こるもとは、3Sにあります。「S：すぐに、S：その場で、S：素直に」、おかしいと思ったことが言えれば、そんなにこじれることはないのですが、AKI38「A：あとで、K：かげで、I：いやらしく、38：うそを言う」ようなことになると、おかしいことが起こっていきます。

思ったことが素直に言える関係。相手の言うことを素直に聞ける関係。そしてそれに素直に返せる関係。そんな関係をつくっていくことです。

けど、「言うは易し行は難し」。言うのは簡単ですが、実際に行うとなると難しいものです。間違いないがらになるかもしれませんが、みんなでそんな関係をつくっていききたいなと思います。

それと、上手くいっていることを「当たり前」だと思わないこと。これ大切です。そんな経験はみなさんにもあるはず。風邪を引いて咳や鼻水が止まらなかったり寝込んでしまった時。骨折をして今まで通りに歩いたり階段の上り下りができなくなった時。どうだったでしょう。「当たり前」は、失われた途端、不自由さを感じ、ストレスになることがあります。ストレスは自分の中に眠っていた攻撃性を目覚めさせ、周りに当たり散らすこともあります。そしてあらためて、「当たり前」に健康だったことのありがたさに気づきます。

「当たり前」を「当たり前」と思わないこと。「もしこの人がいなければ…、もしこれがなければ…」と、常に想像し、感謝の気持ちを忘れないことです。



■私にとって友達は、時にはふざけ合って、時には悩みを相談できる、信頼できる人のことをいうと思います。そして友達とは、どんなことをしてもされても、見返りを求めないものだとも思います。友達をつくるには、まず自分が相手を信頼すること、相手のことを心配することが大切だと思います。そこから相手に信頼され、心配されることで、初めて友達と呼べるのではないのでしょうか。私はこれから人に対して、相手を見た目だけで判断したり、気が合わないからといって自分から遠ざけないようにしたいです。今までも気をつけてきたつもりだったけど、改めて見直していこうと思います。

私にも親友と呼べるほど信頼できる人がいます。でも、私もその子も笑いだったりの感情は表によく出していますが、悲しみだったり怒りだったりの感情はしまい込んでしまうので、私は彼女のことが少し心配になりました。(1組TIさん)

「見返りを求めない」とは、なかなか難しいものです。だって、相手のことを信頼したり心配しても、相手からはそうされないかもしれないわけですから。それでも相手を信じる。これはなかなか大変です。本当に自分との闘いです。みなさんはそんな日常の生活を歩めていますか。

それに、見た目や気が合わないからといって、勝手に判断したり距離を置いたりしないというのも、なかなか大変ですが、すごく大切なことです。

この前、教室のゴキブリをやっつけるシーンに出くわしました。ゴキブリさんは特に危害を加えてるわけではないのに、その見た目やイメージだけでやっつけられてしまう。そんなことは、他にもありそうな気がします。放っておけばその対象は、人間にも移りかねません。命の大切さを口にしてはいるすぐそばで、命を奪っていく。もっともっと私たちの日常を点検する必要があります。

■私はこの授業で、今までより「友達」について考えました。私にとって「友達」とは、本当の自分を知ってもらえる存在です。初めは静かに見ても、実際はもっと陽気だったりするところを知ってもらえる大切な存在です。でも、すぐ友達ができるわけではなく、その間には友達をつくるのに大切なこともあります。初めから、何かきっかけを見つけ、もしくは探してから少しずつ話して自分を知ってもらおうとします。スタートから「気まずいなあ」とか、マイナスになることは考えず、こうすると話はつながるだろうと思ひながら、何となくでもいいから少しだけ話に入ってみると、少しずつ仲良くなれるチャンスをつかみます。そうしたら友達は一人増えて自分を知ってもらえる人が増えます。そこで気を抜くのではなく、自分がこれからその友達に対してどういう行動をとるのかも大切になります。一定の人とだけ話すのではなく、バラバラにいるんな人と話すことから、仲はどんどん深まります。(1組EDさん)

仲の良い友達、気の合いそうな友達とはすぐに打ち解け合えるものです。そんなのは当たり前。大切なのは、下線部にあるように、今まで話したことのない人、気が合いそうもないと思っていた人のことも知っていくということ。つまり、「人を知る」ということです。

教室では、いろんな教科学習などを通じて、ペア学習や班学習、話し合いや発表などの取り組みをしていると思います。そんな活動を通して、まず身近な人のことを知る大切さを、実感しています。それなくして、遠いところの人、もっと言えば、様々な差別で苦しんでいる人のことを知ることはつながらないからです。教室の仲間の悩みや悲しみ、苦しさを身近に感じるからこそ、様々な差別で苦しんでいる人の思いを想像することができるのだと思うのです。

だからまず、教室のいろんな人のいろんなことを、知ること。そして、その「人」の輪を広げていくこと。自分が作っている壁を、「突き破ること」です！

では、また次の感想、
待ってますね！

